

## 第7節 ごみの発生抑制、再使用、再生利用、焼却量、環境負荷の目標

### 1. 3R指標（数値目標）

循環型社会を構築するために3Rの推進に積極的に取り組む中、その成果や進捗状況を確認し、さらに効率的、効果的な事業の推進を図るために、次のとおり3Rの指標を定めています。

平成37年度末までの目標値は次のとおりです。

表2-15 3R指標

3R指標 (目指す方向)	基準年値 平成26年度	平成37年度目標値 (平成26年度比)
ごみの排出量 (-)	66,922 t	58,282t (約13%削減)
資源化率 (+)	48.2%	約53%
焼却量 (-)	37,284 t	28,854 t (約23%削減)
うち家庭系	25,823 t	18,789 t
うち事業系	11,461 t	10,065 t

※本計画では、平成28年度以降のごみ焼却量の推計に当たり、平成27年度実績焼却量から駆け込み推計分を除いた32,928tをベースに各年度のごみ焼却量を見込んでいます。

### 2. 環境負荷の指標（数値目標）

環境省策定の「ごみ処理基本計画策定指針（平成25年6月改定）」では、地球温暖化防止の観点から温室効果ガスの排出量の削減について配慮するように求めていることから、新たに環境負荷（温室効果ガスの排出量）の指標も定めています。

平成37年度末の目標値は次のとおりです。

表2-16 環境負荷の指標

環境負荷の指標 (目指す方向)	基準年値 平成26年度	平成37年度目標値 (平成26年度比)
温室効果ガス排出量 (-) (二酸化炭素換算)	15,799 t-CO <sub>2</sub>	9,188 t-CO <sub>2</sub> (約42%削減)

推計の計算式：

第2次一般廃棄物処理基本計画においては資源化過程及び市域外等についても算出したが、相当の作業量を要し指標として年次計算することが困難であったため、国等のマニュアルに準じて算出  

$$\text{CO}_2\text{排出量 (t-CO}_2\text{)} = \text{①焼却処理量 (t)} \times (1 - \text{②水分率}) \times \text{③プラスチック類比率} \times 2.69$$
 (廃プラスチックの焼却に伴う排出)  

$$+ \text{①焼却処理量 (t)} \times \text{全国平均合成繊維比率(0.028)} \times 2.29$$
 (合成繊維の焼却に伴う排出)

資料：地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域施策編）策定マニュアル（第1版）簡易版（平成22年8月 環境省）計算式より

### 3. その他の指標（モニター指標）

新たに「1人1日当たりの家庭系ごみ排出量」、「家庭系燃やすごみ中の資源物の割合」、「事業系燃やすごみ中の資源物の割合」、「年間1人当たりごみ処理経費」を指標として、経過を把握し、計画の進捗状況を確認します。

表 2-17 その他の指標

モニター指標	基準年値 平成 26 年度	指標で測るもの
1人1日当たりの家庭系ごみ排出量（－）※1	783.8 g/人・日	2R（リデュース、リユース）の推進状況
家庭系燃やすごみ中の資源物の割合（－）	12.76% (平成 27 年度)	家庭系ごみの分別排出の状況
事業系燃やすごみ中の資源物・産業廃棄物の割合（－）	24.05% (平成 27 年度)	事業系ごみの分別排出の状況
年間1人当たり経費（－）※2	20,537 円/人	費用対効果

※1 人口は国勢調査を基礎として推計

※2 経費は、「環境省一般廃棄物処理実態調査結果」から処理及び維持管理費を計上／人口は国勢調査を基礎として推計